

株主メモ

事業年度 毎年9月1日から翌年8月31日まで
剰余金の配当の基準日 毎年8月31日
定時株主総会 毎年11月
単元株式数 100株
上場金融商品取引所 (証券コード) 東京証券取引所 (6915)
公告方法 電子公告

株主名簿管理人 / 特別口座の口座管理機関
同連絡先 (郵便物送付・電話照会)
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL <http://www.chiyoda-i.co.jp/>
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)

お知らせ

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主優待

対象株主
毎年8月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主様

優待内容

- 保有株式数 100株以上1,000株未満
当社オリジナル図書カード 1,000円券
- 保有株式数 1,000株以上
当社オリジナル図書カード 3,000円券
さらに100株以上の株式を1年間を超え連続所有されている株主様には1,000円の図書カードを追加贈呈

贈呈時期
毎年11月下旬(株主総会終了後)の送付を予定しています。



※図書カードのデザインは変更する場合があります。

証券コード 6915
CHIYODA INTEGRÉ CO.,LTD.

第55期 年次報告書

平成21年9月1日 ▶ 平成22年8月31日

move



ソフトな素材と独自技術の高度なインテグレーションを多彩な

千代田インテグレの製品の多くは、実際には市場で直接目に触れることはありません。しかし当社の技術は、日々私たちが当たり前のように使っているモノ、OA機器や通信機器、自動車などの広範なフィールドで使われています。

当社製品のコンセプトは、ソフトな素材とさまざまな技術のインテグレーション。当社では独自の「ソフトプレス」を核とする、ソフトな素材に加工を加える技術に加え、シルク印刷、プラスチック射出成形、アクリル切削加工、アSEMBリー、クリーンルー

フィールドへ。

ムによる加工まで、多岐にわたる技術を保有しています。これにより、お客様のニーズを捉え、あらゆる技術と素材を組み合わせるソリューションを高品質、低コストで実現し、多品種少量、短納期に対応、お客様の高い評価を得ています。そして、当社はこれらの製品を、国内はもとより、世界の多彩なニーズに応えるグローバル・パーツ・サプライヤーとして、世界各国に展開する拠点から千代田インテグレの高いブランド価値とともにお届けしています。

さまざまな「ソフトな素材」を加工する、独自のコア技術「ソフトプレス」とは？



「ソフトプレス」とは、フィルム、ウレタン、両面テープ、あるいはそれらの複合素材など、「柔らかい素材」を自在に加工する当社のコア技術です。当社の強みを生かした事業展開をするため、2004年に商標登録をいたしました。「ソフトプレス」によって生産された部品は、OA機器をはじめ、人々の暮らしを支える多様な機器に展開しています。機器のモデルチェンジが著しい昨今、この技術の汎用性の高さがその変化の中で生きてきました。当社は既存概念にとらわれない柔軟なモノづくりで新たな事業分野への展開を進め、世界市場に広めていきます。



企業体質の強化が着々と進み、営業損益・経常損益ともに黒字化



代表取締役社長 小池 光明

ごあいさつ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご支援ご愛顧を賜り誠にありがたく厚く御礼申し上げます。
 当社、第55期(平成21年9月1日から平成22年8月31日まで)の決算を終了いたしましたので、ここに営業の概況と主要項目につきましてご報告申し上げます。
 今後とも株主のみなさまの一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

》 当期の経営環境と業績について

当連結会計年度における経済情勢は、海外経済の回復や輸出の伸びに支えられ、緩やかな景気回復が続きましたが、日本の企業を取り巻く事業環境は依然厳しく、円高進行に対する懸念や株価の低迷などの不安要素もあり、先行きに対する判断を慎重に見極めなければいけない状況が続いております。

このような厳しい経営環境が続く中で、当社グループにおきましては、グループ一丸となり、各部門それぞれが収益に拘り、各自がコスト意識を持ちながら日常の業務に励むことに注力し、より一層の業務の効率化による経費の削減に努めております。それにより、厳しい経営環境に耐えることのできる企業体質の強化に取り組むことを推し進め、収益力

の改善を行ってまいりました。

地域別では中国における売上が堅調な伸びを見せており、業種別では通信機器・自動車関連が好調に売上高を伸ばしています。特に通信機器については海外における、日系資本以外のメーカーの受注が伸びつつあります。以上のような貢献とコストカット継続の下、為替の円高基調が続く中でも営業利益、経常利益の黒字回復を達成しております。(業績の詳細についてはP7~8をご参照願います。)

》 今後の成長に向けて

当社グループが取り扱っている機構部品は、急激な技術革新、顧客ニーズの変化、製品の多様化もあり、生産面でもグローバル化が目まぐるしく変化し

当期のポイント

ポイント1

売上が前期比11.2%アップと回復

特に中国においては前期比22.7%増

ポイント2

企業体質の強化により収益力が改善

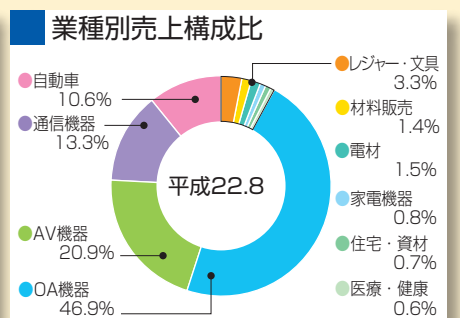
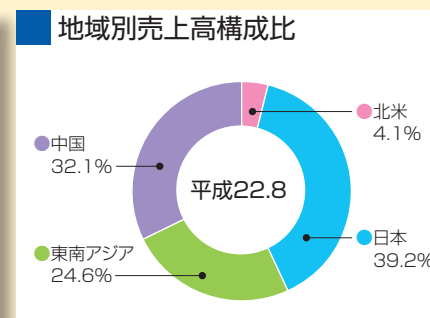
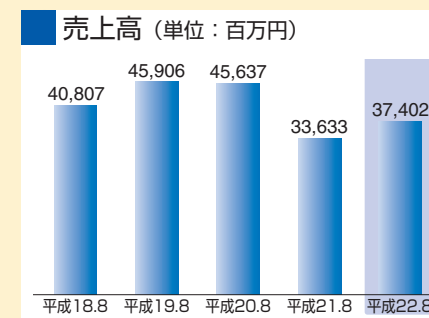
全地域、全業種において収益力が改善

ポイント3

営業損益・経常損益がともに黒字化

販管費低減により営業利益増加

決算ハイライト



ております。特に最近では、日本の各メーカーが製造拠点を日本から海外に移管するだけでなく、製造委託という形態のものづくりが増加しており、当社におきましても今以上の更なる対応が必要になるでしょう。

このような急激に変化する事業環境の中で、市場の動向を機敏に嗅ぎ取る感性と対応のスピードを上げることで、真のグローバル企業としてのブランド確立を目指し、ソフトプレスという事業を中核として、ものづくりの技を磨き、事業拡大を継続していくことでトップシェアへの挑戦を行うだけでなく、厳しい経営環境に耐えることのできる企業体質の強化に取り組みます。

そのためには、前期から継続している「収益力の改善」に引き続き取り組むことで、営業利益の確保できる体制を構築してまいります。営業部門につきましては、営業力の強化を図り、市場における存在価値を示し、競合各社との差別化を図ることで、日

系メーカーの生産拠点の海外流出に対応しながら、日系資本以外のメーカーに対しても積極的な営業活動を行い、販路の拡大に取り組んでまいります。製造部門におきましても、ここ数年のIT投資による経営基盤を強化した成果として、適正な在庫管理を行いながら原価低減を図ってまいります。一方で、今までと違った分野にも目を向け、先駆者利益を生み出せるようなものにも挑戦を行ってまいります。

次期の見通し

前期に引き続いて不安定な為替の行方等、依然として厳しい経営環境が見込まれるものの、市場での競争力を高めるべく設備投資を少しずつ再開してまいります。今後の経済成長が期待される中国市場におきましては、生産性向上を図るため、人から機械へと合理化を進め、高騰する人件費抑制対策について早急に取り組み、原価低減を進めコスト削減に取り組むことで収益力を改善させ、業績の回復に努

めてまいります。

さらに、中国には新しく2拠点を設立致します。山東省に設立する千代達電子製造(山東)有限公司では、山東省周辺の日系資本以外の顧客をターゲットとし、広東省に設立する千代達電子製造(広州)有限公司では、広州周辺の自動車業界をターゲットにしており、より一層の業容の拡大を図っていく方針です。

これらの状況を踏まえ、通期の連結業績につきましては、売上高40,000百万円、営業利益1,600百万円、経常利益1,400百万円、当期純利益800百万円を見込んでおります。

株主のみなさまへ

当社では、経営の効率化によって収益の向上を図り、安定した配当と株主優待制度を継続的に実施することを基本方針としつつ、将来の事業展開に備えて財務体質の強化を図ることに努めて

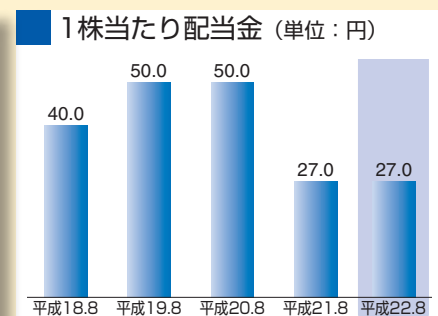
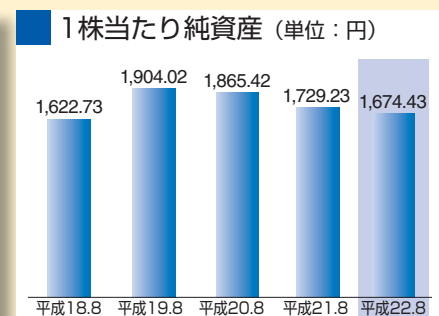
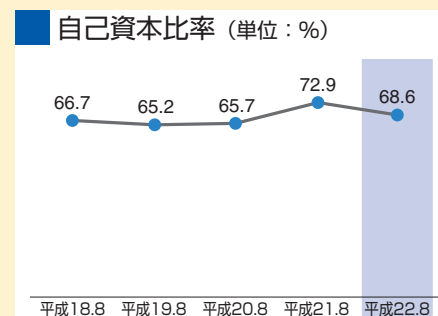
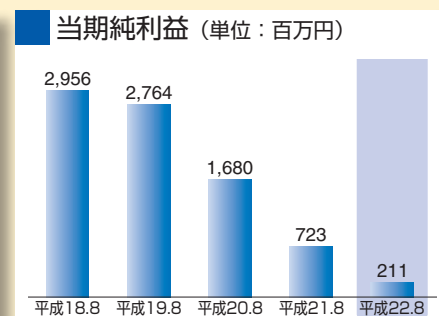
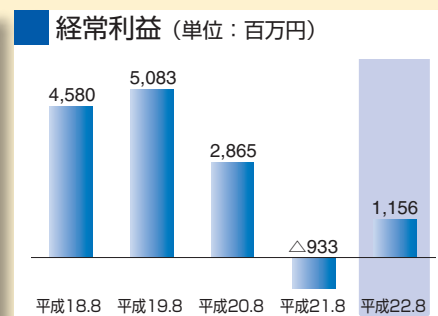
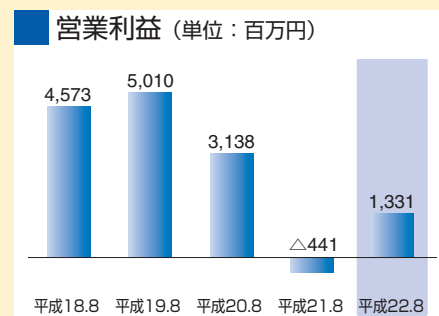
います。

内部留保につきましては、今後予想される事業環境の変化に対応すべく、多様化した市場ニーズに応える技術・製造開発体制を強化し、今まで以上にコスト競争力を高め、さらにはグローバル戦略の展開を図るために有効投資することとしております。

以上の方針に基づき、この度の期末配当金額につきましては、1株当たり27円として実施させていただきます。

当社は「質実剛健」を旨として、これからも着実かつ持続的な企業成長を遂げてまいります。株主のみなさまにおかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

決算ハイライト



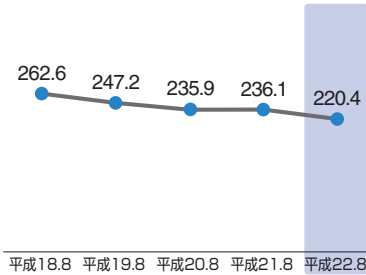
連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

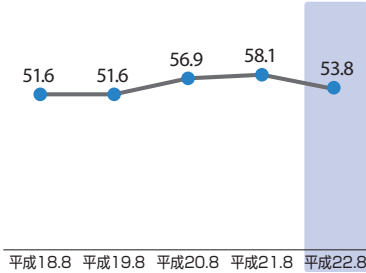
（単位：百万円）

	当期 平成22年8月31日現在	前期 平成21年8月31日現在
資産の部		
流動資産	21,251	18,879
固定資産	12,453	13,887
有形固定資産	8,770	9,810
無形固定資産	951	1,194
投資その他の資産	2,730	2,883
資産合計	33,704	32,767
負債の部		
流動負債	9,642	7,996
固定負債	926	876
負債合計	10,568	8,873
純資産の部		
株主資本	25,411	25,513
資本金	2,331	2,331
資本剰余金	2,450	2,450
利益剰余金	21,161	21,263
自己株式	△531	△531
評価・換算差額等	△2,275	△1,620
その他有価証券評価差額金	△73	△91
為替換算調整勘定	△2,202	△1,528
純資産合計	23,136	23,893
負債・純資産合計	33,704	32,767

流動比率（単位：％）



固定比率（単位：％）



資産、負債及び純資産の状況

資産合計は主に受取手形及び売掛金の増加により前期末よりも937百万円増加いたしました。負債合計は主に支払手形及び買掛金の増加により前期末よりも1,694百万円増加いたしました。純資産合計は主に為替換算調整勘定の減少及び利益剰余金の減少により前期末よりも757百万円減少いたしました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当期 平成21年9月1日～ 平成22年8月31日	前期 平成20年9月1日～ 平成21年8月31日
売上高	37,402	33,633
売上原価	30,108	27,736
売上総利益	7,293	5,896
販売費及び一般管理費	5,962	6,337
営業利益又は営業損失(△)	1,331	△441
営業外収益	221	184
営業外費用	396	677
経常利益又は経常損失(△)	1,156	△933
特別利益	88	104
特別損失	650	263
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	594	△1,093
法人税、住民税及び事業税	470	150
法人税等還付額	—	△163
法人税等調整額	△87	△1,803
法人税等合計	383	△1,816
当期純利益	211	723

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当期 平成21年9月1日～ 平成22年8月31日	前期 平成20年9月1日～ 平成21年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,738	1,968
投資活動によるキャッシュ・フロー	△435	△1,886
財務活動によるキャッシュ・フロー	△927	△22
現金及び現金同等物に係る換算差額	△290	△470
現金及び現金同等物の増減額	1,085	△410
現金及び現金同等物の期首残高	5,680	6,090
連結外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△39	—
現金及び現金同等物の期末残高	6,726	5,680

キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物は、営業活動により2,738百万円増加、投資活動により435百万円減少、財務活動により927百万円減少しました。この結果、前期末に比べ1,046百万円増加し、当期末には6,726百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりとなっております。

■営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は2,738百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が594百万円、減価償却費が1,408百万円及び仕入債務の増加額が2,298百万円であったことに対して、売上債権の増加額が1,601百万円、たな卸資産の増加額が796百万円及び法人税等の支払額が359百万円であったこと等によるものです。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、支出した資金は435百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出432百万円によるものです。

■財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、支出した資金は927百万円となりました。これは主に、短期借入金の純減額542百万円及び配当金の支払額373百万円によるものです。

株式情報 / 会社概要 (平成22年8月31日現在)

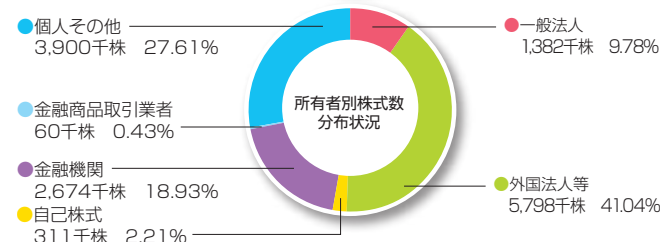
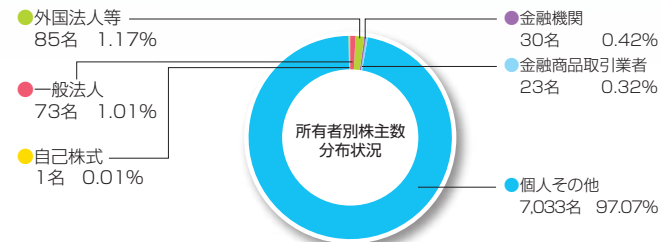
株式の状況

発行可能株式総数	32,600,000株
発行済株式の総数	14,128,929株
株主数	7,245名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
いちごアセットトラスト	3,341	23.65
ビービーエフフォーファイナティロープライスストックファンド	530	3.75
株式会社三菱東京UFJ銀行	429	3.03
日本生命保険相互会社	423	2.99
日本毛織株式会社	385	2.72
東京中小企業投資育成株式会社	378	2.67
ユービーエスエイジーロンドンアジアエクイティーズ	366	2.59
第一生命保険株式会社	304	2.15
株式会社みずほ銀行	289	2.05
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	284	2.01

※当社は自己株式311(千株)を所有しております。

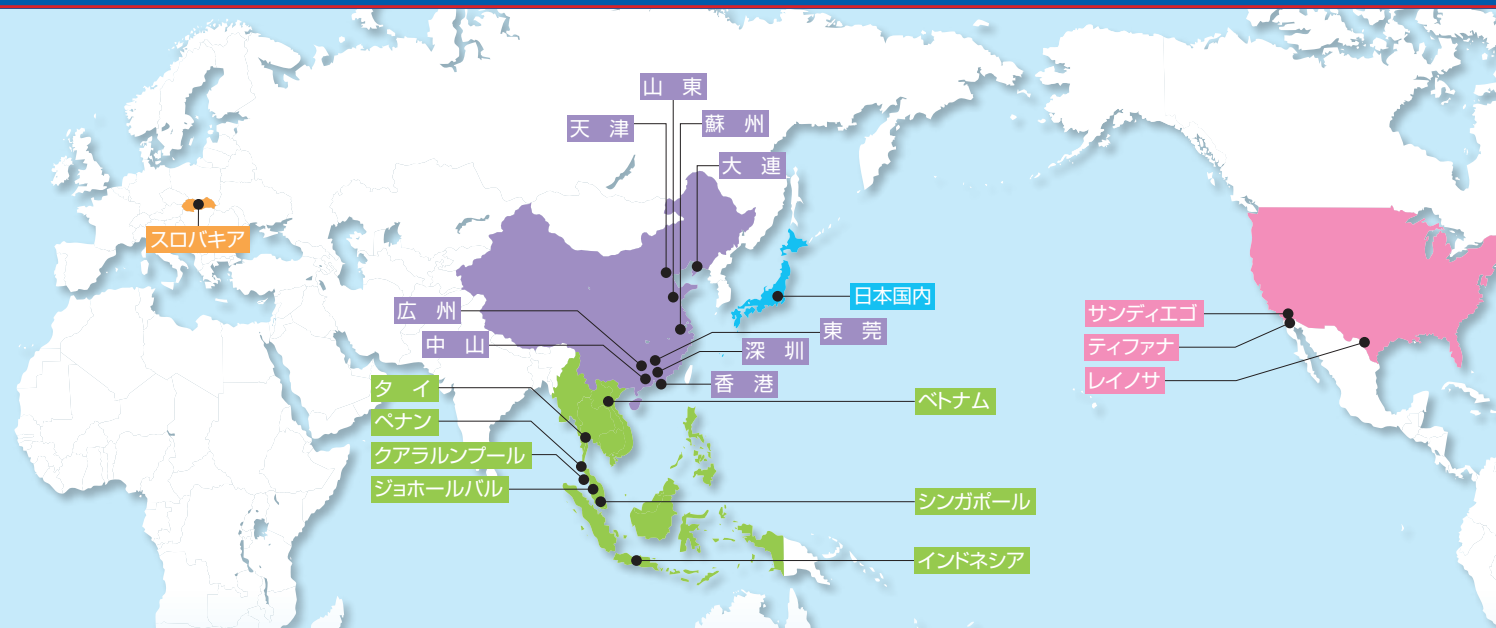


会社概要

社名 千代田インテグレ株式会社
 設立 昭和30年9月
 本社所在地 〒104-0044 東京都中央区明石町4-5
 資本金 23億3,156万円
 従業員数 334名(グループ総計 5,025名)
 主要な事業内容 当社は、OA機器・AV機器・通信機器・自動車など各製品の機構部品、機能部品の製造販売を主な事業としております。

役員

代表取締役会長 丸山 要
 代表取締役社長 小池 光明
 常務取締役 高山 勝
 取締役 村澤 琢己
 取締役 佐藤 明
 取締役 及川 彰
 常勤監査役 今井 忠夫
 監査役 土屋 賢治
 監査役 渡邊 直文
 監査役 山下 明



千代田インテグレグループ

当社グループはグローバルな生産体制をとることにより、日本国内にとどまらず幅広いエリアに、低コストかつ短納期で高品質な製品を提供できるネットワークを構築しております。

国内

本社	〒104-0044 東京都中央区明石町4-5 TEL. 03-3542-3410(代)
本社・海外部	静岡営業所 東京支店・工場 名古屋営業所 青森営業所 仙台営業所 厚木営業所 大阪支店・工場 新潟営業所 大阪営業所 長野営業所 広島営業所 豊橋支店・工場 大分営業所
子会社	サンフエルト株式会社

海外

東南アジア地域	
シンガポール現地法人	CHIYODA INTEGRE CO.,(S) PTE. LTD.
	CHIYODA INTEGRE CO.,(M) SDN. BHD.
マレーシア現地法人	CHIYODA INTEGRE CO.,(PENANG) SDN. BHD.
	CHIYODA INTEGRE CO.,(JOHOR) SDN. BHD.
タイ現地法人	CHIYODA INTEGRE (THAILAND) CO., LTD.
インドネシア現地法人	PT. CHIYODA INTEGRE INDONESIA
ベトナム現地法人	CHIYODA INTEGRE VIETNAM CO.,LTD.
中国地域	
	千代達電子製造(香港)有限公司 千代達電子製造(大連)有限公司 千代達電子製造(深圳)有限公司 千代達電子製造(中山)有限公司 千代達電子製造(蘇州)有限公司 千代達電子製造(東莞)有限公司 千代達電子製造(天津)有限公司 千代達電子製造(山東)有限公司(予定) 千代達電子製造(広州)有限公司(予定)
北米地域	
アメリカ現地法人	CHIYODA INTEGRE OF AMERICA (SAN DIEGO),INC.
メキシコ現地法人	CHIYODA INTEGRE DE BAJA CALIFORNIA,S.A.DE C.V. CHIYODA INTEGRE DE TAMAULIPAS S.A.DE C.V.
欧州地域	
スロバキア現地法人	CHIYODA INTEGRE SLOVAKIA,s.r.o.